

食の国際交流と豊かな食生活をめざして

日本通として知られ、ヨーロッパの生活も経験されて、文字通り国際的な味覚を持たれた元米国駐日大使・故ライシャワー博士。「食の国際交流」が世界中の人々に豊かな食生活をもたらしていることを、博士は、当社に寄せたメッセージのなかで述べられています。そしてその例証として、日本人の食生活に欠かせない基礎調味料・しょうゆのアメリカ進出と成功を取り上げています。

また評論家の花田清輝は「真にナショナルなものは、実はインターナショナルである」と喝破

しましたが、まさにしょうゆについて述べているかのようです。

このように一国の食文化が、世界各国の文化に融け込み、新しい食文化として芽生え、成長するとき、人々のより豊かな食生活が育まれるのです。

当センターの活動が、日本はもちろん世界の国々の食の歴史や食文化を紹介にとどまらず、「食の国際交流」に少しでも寄与できることを願っています。

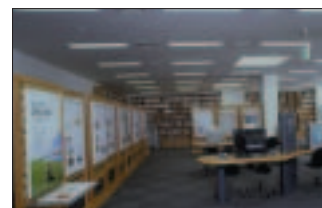
キッコーマン国際食文化研究センター



食関連図書コーナー
インターネットからも収蔵図書の検索ができます。



キッコーマンの故郷——野田の町並みに調和させた野田本社正面



展示パネル・映像コーナー

<キッコーマン国際食文化研究センターホームページ>

<http://kiifc.kikkoman.co.jp/>



表紙(中国画・金瓜)の作家紹介。
鄭乃瑛(ごうい)画伯。雅号は璧寿翁。一九二一年二月中国福建省福州市生まれ。現代中国画壇の重鎮で、独創的な風格をもつ画家であり、芸術教育家でもある。山水、楼閣、人物だけでなく花、鳥獸、果物、野菜等も得意としており、中国民族文化の伝統を継承しつつも現代的な精神もそなえる。中国画の題材や情緒、構図、造形、筆遣い、色彩、韻、落款等各方面において新境地の開拓に貢献している。欧米・アジア・アフリカの数十カ国の美術展に出展、受賞している。出版物は三〇点以上、作品は中南海、人民大会堂、中国美術館をはじめとする多くの美術館や記念館、博物館に収蔵されており、また百以上の事典や名鑑、年鑑に紹介されている。
現在、政府文化部の中国画研究院委員、中国工筆画学会顧問、福建省政治協商会議常任委員、福建省文連名誉主席、省文史研究館副館長、西安美术学院教授、福州画院院長を務める。中国一級美術師に認定されている。

キッコーマン国際食文化研究センター
〒278-8601 千葉県野田市野田250

TEL:04-7123-5215

FAX:04-7123-5218

<開館時間>午前10時~午後5時

<休館日>土・日曜日、祝日(年末・年始、
ゴールデンウィーク、旧盆)

※詳細は当センターへお問い合わせください。